

『開放時代』東京会議

ワークショップ

「中国の〈いま〉と人文学」

—『開放時代』との対話を通じて—

2013年6月15日(土) 10:30~17:30

東京大学駒場キャンパス 18号館 4階コラボレーションルーム1

使用言語：中国語（日本語通訳あり）

【開催趣旨】

『開放時代』は、21世紀以降の中国の人文学を代表する学術雑誌である。それは、時の問題を人文学の知によって省察し、ことばを中国の社会と文化に還元する運動を不断に継続している点で、他の学術誌の追随を許さない。わたしたちは、『開放時代』を支える3人の論者に加えて、日本を代表する学術思想雑誌『現代思想』を長年支えてきた前編集長の池上善彦氏を招いて、今日の中国の人文学において何が問われているのか、そしてそれがわたしたちの人文知においていかなる意義を有しているのかを、共に考えてみたい。これは、単なる中国研究、中国理解にとどまるものではなく、わたしたちが置かれている〈いま〉を、時間と空間の座標系の中で立体的に省察するための、有効かつ必要なアプローチである。

【登壇者】

司会：村田雄二郎（東京大学）

石井剛（東京大学）

陳少明（中山大学）

池上善彦（前『現代思想』編集長）

呉重慶（中山大学 『開放時代』名誉主編）

呉銘（『開放時代』執行主編）

羽根次郎（愛知大学）

尾崎文昭（東洋文庫）

主催：科研費基盤研究（B）「現代中国思想史構築のための中国知識界言説研究」

共催：『開放時代』雑誌社、東京大学共生のための国際哲学研究センター（UTCP）